

平成 29 年度 第 4 回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：平成 30 年 2 月 23 日（月）午後 1 時 30 分～午後 5 時 00 分

開催場所：岡崎市役所東庁舎 7 階 701 号室

出席委員：5 名

瀬口哲夫委員（委員長）・加藤安信委員（副委員長）・奥田敏春委員・丸山宏委員・三浦正幸委員

欠席委員：2 名

中井均委員・堀江登志実委員

説明のために出席した事務局職員：12 名

社会教育課：小野鋼二課長・荻野泰久副課長・柴田英代文化財係長・小幡早苗主任主査・山口遥介主査・中根綾香主事

まちづくりデザイン課：浅井恒之副課長・木下政樹歴史まちづくり係長・山本礼美主査

公園緑地課：横山晴男課長・河合寿八主任主査・山口愛理主事

傍聴者：なし

次第

1 議題

（1）社会教育課事業

- ア 石垣保存修理基本計画策定事業について
- イ 菅生川端石垣整備事業について
- ウ 総構え発掘調査(六名緑地)結果報告
- エ 公開活用事業の実施報告について

（2）まちづくりデザイン課事業

- ア 総構え位置表示整備基本計画の方向性について
- イ 歴史文化資産解説板整備について
- ウ 道路修景整備について

（3）公園緑地課事業

- ア 岡崎公園石碑等再配置検討業務について
- イ 岡崎公園周辺さくら保全・利活用計画について

（4）その他

- 籠田公園の整備事業について

議事内容

1 議事

(1) 社会教育課事業

ア 石垣保存修理基本計画策定事業について

事務局：配布資料 1-1 に基づき説明

【質疑応答】

委員：史跡指定は何年か年表にはない。その記載が必要。また、近代の行政文書と思うが、元になったものは内部資料として整理されているか。

事務局：紙で綴りになっているものがある。

委員：年表の近代のところに、行政文書について記載しておく必要があると思う。後でもう一度調べるときに便利。

事務局：文書として扱う場合は、公文書としての保管が必要だが、たまたまこうして行政文書として残っていたものである。

委員：図書館等で、行政文書も保管する必要がある。保存しておかなくてはならない資料である。

先程の植栽の件でも、探せば行政文書が見つかるかもしれない。

委員：資料のリスト化はこれまでにしているか。

事務局：これまでも行政の資料の前に、それを抜粋した年表のようなものは作ってあった。現在の資料もタイトルが把握できるリスト化は必要だと思っている。

委員：公文書館を造るまでに時間がかかりそうなので、とりあえず文化財関係の資料を保管する体制を確立する必要がある。

事務局：歴史公文書という形で永年保管されていく。

委員：設計資料などは文化財にとっても大事なので残すように。

委員：石垣研究の歴史がまとめられているが、いつ頃から始まったかはいろいろ議論があり、皆さんの関心も高い。藤岡氏が天守台石垣を文禄以前の石垣と言っていることについて石垣のどこがそのような形態なのかなどの根拠が示されていない。この辺りは色々と問題になってくるので、書き加えた方が良くと思う。

委員：天守台の石垣は鉄筋コンクリートの天守閣を造る際、手を加えているが、そのことは記載してあるか。北側や西側は新しい雰囲気があるが、それに関する記録はあるか。

事務局：古写真が何枚かある。

委員：古写真ではなく、工事局の記録などもあるのではないか。あるのであれば、天守台石垣は大きな問題なので、これまでの記録も公開しても良いと思う。

委員：この計画は、全ての石垣の現状を把握していくことだと思うが、現状を全体的にフラットに調査していて、優先的な措置が必要なところ、例え

ば坂谷門など優先的に改修していくという文言は出てこないのか。今後修理する時に必ず順位が出てくる。坂谷門なども改修することは効果的だと思うが、そういったことは今回記載しないのか。

事務局：今回は修理をメインとした形をとっている。それとは別に曲輪や門は曲輪構成の大事な部分として、史跡整備の中では優先度が高いと記載しても良いと思う。

委員：第6章基本計画に書けることではないか。石垣保存修理基本計画の基本方針の中に優先順位が書いていない。

委員：緊急度と整備後の効果が高くなるという区分もあり得る。その場合の順位付けを今回行うのか、今後行っていくのかという記載が必要と思う。その辺りはどこかに書いてあるか。

委員：現段階で整備することが効果的な箇所と決められなくても、考え方を記載しておく必要はある。

委員：効果の高い箇所から整備をするという優先順位の決定も必要かと思う。

事務局：石垣保存修理事業計画で全体の方針を述べている。考え方として危険度と緊急度があるが、確かに史跡の価値を高める効果的な整備箇所も必要かと思う。しかし、この計画で個々の箇所を具体的に明示すると、それに縛られる事になりかねないので、今後実施していくという形で留めておきたい。

委員：具体的ではなく、ざっくりとで良いので、きちんと書いてくれば良い。

事務局：そのように書く。

委員：政策的なこともあり得る。例えば市長の意見であるなど。日常管理で見つかった危険箇所の整備と、史跡の価値を高める効果的な整備とは、考え方が全く異なる。そこの考え方を分けて記載する必要があるということ。具体的な箇所ではなく、そのような方針をとるという事を記載するように。

委員：価値のあるところを顕在化するということが必要。

委員：危険度と健全度は、どちらでも良いと思う。危険度という言葉を使っても悪くはないが、危険度が一番高いという評価について、地震や風水害で崩れる危険性が大きいや高いと書いてしまうのは良くない。その可能性があるなどの程度に留めておく必要がある。危険性が高いと書いてしまうとすぐに崩壊してしまうと感じてしまう。

事務局：分類上は危険度分類だが、その元となっている石垣の健全性という部分で、変状が有るか無いかという書き方でいいか。

委員：危険度という言葉は使って構わない。使っても良いが、定義に直ちに崩壊の可能性が高い等の記載は避けるべきだ。ただし、立地条件で崩壊し

た場合に、人命に関わる恐れがある等は書くように。難しい問題であるが、整理するように。

委員：どういったものが健全なのか、健全度の把握は難しくはないか。健全性はどこを以って把握するのがわからない。

委員：健全度が高いとしているところが崩壊した場合、疑問視される。

事務局：ひとつは目視レベルでの判断に留まっており、それでは不足しているので詳細調査が必要であるという方針である。

委員：資料の後ろに事例でガラス棒の設置や、定点観測は事前に行うということを書くべきだと思う。ガラス棒は地震等で割れたりすると聞くがどうなのか。

委員：石材間や割れ部分の口が開けばガラス棒は落ちて、閉まればガラス棒は割れる。分かりやすいのは確かである。

委員：有効性はどのくらいあるか。

委員：あまり有効性はない。なぜかという、悪戯で抜いたり付けたりする人がいる。また、ガラス棒が見えているのを嫌う人もいるので、あまりお勧めできない。それならば、定期的に測量した方が正確にわかる。20年程前に、盛岡城で20年かけて石垣の調査を奈良文化財研究所の内田彰人さんが実施されている。その実測記録によると、全ての石垣は1年間で5mm程度は上下左右に動いているので、5mm動くのは標準的なこと。レーザー等で測量するとき、気温と季節が一緒でないと照合できない。夏になると動き続け、冬になるとその分が戻る、それを繰り返しているので5mmは動く。内田先生の資料と併せて観測すると良い。

委員：裏込め石が下がっていくという事もある。

委員：それも内田先生の研究にあり、20年の観測の中で震度5の地震が2回あり、石垣の面に垂直に来た時は被害が大きい。平行に来た時は被害が全く無い。垂直に来た時に5mm外に飛び出した時は、二度と戻らなかった。築石が前に5mm出た時に、上部の裏込め石が下部に入り込んでしまい戻れなくなる。そして、下部に裏込め石がたまって、石垣下部が孕み出してしまう。20年分の調査記録があるが、5mmの動きは大体一緒である。

委員：石材の割れに対する補強で、現在各所でよくエポキシ樹脂を使っているが、耐候性が無い。大体20年、最長でも50年で強度がなくなる。接着するならばセメントが良い。セメントならば未来永劫大丈夫である。しかしセメントの場合は割れたところ全てに注入して接着しなくてはいけない。注入は解体時に行うので、解体時に割れた石材を工場へ運び注入を行えば完璧。岡崎城の石材は小さいので工場に搬入できる。エポキシ

樹脂とは書かずに、接着剤やセメント系の注入剤などを用いると書いておく方が良い。

委員：今、名古屋城二の丸庭園で、割れた石材にエポキシ樹脂ではなく、シリカを使っている。それだと十分に支えられる。

委員：工場で行っているか。

委員：取り外して現場で行っている。清掃と取り外しの後に現場で行う。

委員：その方法が可能ならそれが良い。

イ 菅生川端石垣整備事業について

事務局：配布資料 1-2 に基づき説明

【質疑応答】

委員：年度内に基本設計を行うのか。

事務局：年度内には方針まとめて、河川管理者と協議をしていきたい。

委員：見せるのは大いに良いが、見学ルートの設定が必要。階段がなくなる、別の探索できるルートを検討する必要がある。もう1つは、名古屋城の二の丸庭園で使っているが、ハガネ土を使用すると良い。芝を張らなくてはいけませんが、真砂土より粘土が高く、垂直なところでも法面が固まる。奈良や各務原にもある。雨が降っても5年くらいなら大丈夫である。

委員：石垣の最後のまとめで、短期と中長期の事業計画があったが、応急的処置についてはっきり記載して、そこに菅生川端石垣の土がかぶっている部分や、支障要因になっている樹木の問題も含まれる。石垣を崩壊させてしまうような樹木は応急的措置として、短期中の短期くらいで対応する項目も明示すればどうか。詳細調査までいかないが、間詰石の補充や、築石の崩れを発見するなどは、応急的措置で行った方が良いと思う。そのような作業はよく見えるので、市民の方々に岡崎城の石垣保存修理が始まっていることをアピールできる。

委員：石垣修理を行う前提として、木は切らなくてはいけない。

事務局：整備計画の最後にもう少し詳細に記載する。

委員：公園側とよく相談するように。石垣を棄損する樹木は切らないといけない。

事務局：本丸埋門北側に高い石垣があるが、樹木が5、6本生えていたので、サンプル的に切っている。切り終わるのが3月上旬を予定しており、着前着後をアピールして樹木伐採を増やしていきたい。

委員：犬山城に行ったが、国史跡だが木を大量に切っていた。以前までは切らなかったが、今では切っている。

委員：切るのは良いが切るのが、下手なところがあるので、専門の方に頼むべきである。また切った際には、切り口を面取りしているということをアピールしなくてはいけない。切りっぱなしでは見栄えも悪い。

ウ 総構え試掘調査（六名緑地）結果報告

事務局：配布資料 1-3 に基づき説明

エ 公開活用事業の実施報告

事務局：配布資料 1-4 に基づき説明

【質疑応答】

委員：清海堀に入ってみると上から見ているのとは違い、圧倒的な迫力であった。石垣を顕在化していくことは大切だが、遺構を傷つける心配があるので、どの程度公開していくか考える必要がある。

(2) まちづくりデザイン課事業

ア 総構え位置表示整備基本計画の方向性について

イ 歴史文化資産解説板整備について

ウ 道路修景整備について

事務局：配布資料 2-1、2-2、2-3 に基づき説明

【質疑応答】

ア 総構え位置表示整備基本計画の方向性について

委員：コアの整備として、家康館の展示の見直しがあるが、文化財としては史跡内に家康館があっているのか。投資する必要があるか。

事務局：基本計画では、将来的には移転等を検討することになっている。

関係課：現在の展示に総構えのストーリーがないため、まちの成り立ちなど、展示内容をリニューアルすることを考えている。施設に過大な投資をするのではない。中核拠点という意味のコアの整備である。

委員：整備事業案に、大手門など建造物を推定復元とあるが、建造物の推定復元は上限とハードルがある。推定復元ではなく、復元とした方がよい。大手門など建造物を推定復元という記載は見直すこと。

委員：推定復元であれば、造らないほうがよい。資料が少なくても、考証の結果、復元したのであれば推定復元とは言わない。

イ 歴史文化資産解説板整備について

委員：何年度に何をやるのか一覧はないのか。

案内板の基本的な方針はできるが、具体的な計画が必要である。岡崎公園は岡崎城跡の整備を進めている中で、すり合わせもすべきと思うが。

関係課：まだ具体的な年次計画はないが、来年度設置工事は始めていく。

社会教育課と調整を図り、進めていく。

委員：案が決定する前に、委員会に諮り、意見をきくように。

関係課：現在、既設のバラバラなデザインで設置した看板を集約していくという方針のもと、関係課と調整している。看板の形状、色彩、素材について意見を伺い、来年度にわたり検討していく。

素材をガラスとした場合はどうか。

委員：ガラスは、背景が透けて見にくい。

他の史跡のいろいろな事例を集めてみては。

委員：岡崎公園は広いので、看板に地図をつけ、今ここにいるということを明示して解説すると親切なのでは。

委員：どういう種別の看板が必要なのか検討がいる。

まず、曲輪ごとの総合解説板、本丸や二の丸など。それに地図と曲輪の説明をつける。次に、曲輪の局所的な解説板、本丸表御門跡、月見櫓跡など。これは解説のみ。あとは、〇〇跡などの名称だけのものと道標。序列を決めると、それぞれ盛り込む内容と設置の位置も決まってくる。大勢いるお城のファンは石垣などの写真を撮り、看板が石垣を隠していると腹が立つ。設置の場所は1本1本現地を視察し、検討する城跡の委員会もある。模型を作って、現地で確認するとよい。

また、全体に看板が大きすぎる。高さは1mくらい、道標の幅も普通20cmくらい。島田市の諏訪原城跡の案内サインを参考にするとよい。

素材についても、ガラスは強度に問題がある。割られる場合がある。

委員：看板に色を使うのは基本的に反対。せいぜい1色か2色。

〇〇まで、あと〇mなど見る人にとって必要な情報に配慮すること。

ウ 道路修景整備について

委員：二十七曲りの整備について、戦後の区画整理で拡幅しており、どの程度拡幅したか調べればわかると思う。道幅についても慎重に。

関係課：戦災復興の図面を見ればわかるので、検討中である。今までは、歩道のグレードアップだけであったが、位置表示についても考えている。

(3) 公園緑地課事業

ア 岡崎公園石碑等再配置検討業務について

事務局：配布資料3-1に基づき説明

【質疑応答】

ア 岡崎公園石碑等再配置検討業務について

委員：作家が作った彫刻は注意が必要である。勝手に処分し、訴えられた事例もある。

関係課：寄贈者にも了解を得て再配置する。

委員：杉浦銀蔵の碑、小滝喜七郎胸像など市に貢献した方の碑などは、東公園に本多光太郎や志賀重昂の碑もあり、再配置してはどうか。

委員：出身地の公園、ゆかりの場所に再配置するのもよい。

委員：坂谷曲輪にある案内板に石像が付いているものがある。案内板に含まれるのか、石碑に含まれるのか、確認をするように。

イ 岡崎公園内のさくらの管理・植樹について

事務局：配布資料 3-2 に基づき説明

【質疑応答】

委員：植栽管理計画はいつ策定するのか。

関係課：平成 30 年度に策定する予定である。

委員：さくらは日が当たらないと花が咲かない。周りの常緑樹の伐採、剪定は検討しているのか。さくらを生かすのか、老木であるさくらを伐採するのか判断が必要。

関係課：検討は進めているが、個別カルテの作成は乙川河川下流部分のみであり、公園内は簡易診断程度しかできていない。公園内は個別カルテを作成してからになる。

委員：公園はセキュリティの問題もある。見通しをよくするために、伐採、剪定することも検討するように。

委員：長期計画では、多目的広場南のイチョウ並木がさくらになっている。安易に植え替えるのではなく、植えられた経緯なども調べ、検討するように。

(4) 籠田公園の整備事業について

事務局：配布資料 4-1 に基づき説明

【質疑応答】

委員：旧東海道の道幅 5.4m を石張りにより表示することだが、安全性やメンテナンスの面で問題があるのではないか。

事務局：教育委員会としても、道幅 5.4m を表示したいと考え、この設計に変更している。